



豊見城市登校支援リーフレット



豊見城市教育委員会

不登校に取り組む「3つのステップ」



不登校とは？

定義：「何らかの心理的、情緒的、身体的あるいは社会的要因・背景により、登校しないあるいはしたくともできない状況にあるために年間30日以上欠席した者のうち、病気や経済的な理由による者を除いたもの」(文部科学省)

不登校は、取り巻く環境によっては、どの子にも起こり得ることとして捉える必要があります。不登校の要因や背景は多様かつ複雑であり、子供により様々です。即効性のある手立てや全ての事例にあてはまるような方策はないと言えます。しかし、関係機関等が連携し、未然防止や初期対応に取り組むことで、一定の効果が期待できると考えます。

こんな様子が見られたら・・・

家庭で

- 朝になると頭痛や腹痛を訴える。
- 「学校に行きたくないと訴える。
- 朝起きられなくて遅刻する。
- 部屋に閉じこもりがちになり、夜遅くまでスマホやゲームなどをして昼夜が逆転している。
- 学校のことを聞くと不機嫌になったりはぐらかしたりする。
- 生活全般で、意欲が低下している。

学校で

- 休み明けや特定の曜日に休みが多い(保護者からの病欠届けも含む)。
- 病欠でない休みがある。
- 保健室利用が増えてきた。
- 学習意欲が低下している。
- 特定の教科で欠席や欠課、遅刻が繰り返される。
- 部活動を休みがちになる等、放課後の過ごし方が変わった。
- 仲の良かった友だちと一緒にいない、一人であることが多い。

学校でも家庭でも丁寧な初期対応が大切です。学校と家庭がしっかり連携をとりながら、子供の話をじっくり聞き、寄り添うようにしましょう。

保護者の皆様は、まずは担任(学校)へご相談を。



★確認★

不登校防止としての家庭の役割

- (1) 基本的生活習慣の確立
早寝・早起き・朝ご飯の定着 「Go家運動」「愛の一声運動」の推進
- (2) 家庭学習の習慣化
- (3) スマホ・携帯電話の「我が家ルール」づくり
使用時間の制限やフィルタリング機能の設定



不登校の対応・ケア

- チームによる支援体制 ○専門家・関係機関との連携(市適応指導教室・県立総合教育センター・市子育て支援課・医療機関・sorae等)
- 状況に応じた柔軟な対応

早期発見・早期対応

- 早期発見：管理職を含め全職員での情報共有(情報の可視化)
(例：職員室で欠席者の記入板の活用等)
- 早期対応(例)
欠席1日目・・・担任による家庭への電話等の確認
欠席2,3日目・・・担任による家庭訪問、担任外での保護者相談(登校支援員の活用)
欠席4,5日目・・・管理職の家庭訪問等、校内支援チームの立ち上げ、市教委への連絡
欠席6日目以降・・・チームによる支援(ケース会議)(SSW, SC, 支援員との連携)

安心安全な魅力ある学校づくり

- 支持的風土のある学級・学校づくり
- いじめ・暴力行為を許さない学校
- わかる授業づくりの推進
- 保護者と連携した状況の把握と改善

※SSW・・・スクールソーシャルワーカー
SC・・・スクールカウンセラー

「チーム」で支援する校内体制

